



栗田工業株式会社

2019年3月期 第2四半期  
**決算説明会**

---

(証券コード：6370)

2018年11月12日

- 
- 1** | 2019年3月期上期実績 ..... p 1 - 9
  - 2** | 2019年3月期通期見通し ..... p10-18
  - 3** | 中期経営計画MVP-22の重点施策  
( Maximize Value Proposition 2022 ) ..... p19-25

# 1 | 2019年3月期上期実績

---

# 業績概況

(単位：億円)		2017/9期	2018/9期	前年同期比	期初計画	
受	注	高	1,253	1,396	+ 11.4%	1,265
売	上	高	1,081	1,286	+ 18.9%	1,272
営	業	利	102	103	+ 1.2%	114
益						
経	常	利	103	104	+ 1.0%	115
益						
特	別	損	2	△ 7	—	—
益						
親	会	社	74	65	△ 12.1%	81
株	主	に				
帰	属	す				
る						
四	半	期				
純	利	益				
1	株	当	65.99	58.04	△ 12.0%	72.14
た	り	四				
半	期	純				
利	益	(				
円)		)				
為 替 レ ー ト	USD	(	112.4	110.3		110.0
	円)	)				
	EUR	(	121.6	129.9		130.0
円)	)					
CNY	(	16.4	16.8		16.6	
円)	)					

- (株)韓水の連結や電子産業における旺盛な設備投資需要を背景に受注高・売上高が大幅に増加。
- KEGのアルミナ化合物事業譲渡損失を特別損失に、政策保有株式の売却益を特別利益に計上。

# セグメント別の実績

(単位：億円)		2017/9期	2018/9期	前年同期比	期初計画
全社	受注高	1,253	1,396	+ 143	1,265
	売上高	1,081	1,286	+ 205	1,272
	営業利益	102	103	+ 1	114
	営業利益率	9.4%	8.0%		9.0%
水処理薬品事業	受注高	446	525	+ 79	518
	売上高	441	519	+ 78	512
	営業利益	39	45	+ 7	44
	営業利益率	8.7%	8.6%		8.6%
水処理装置事業	受注高	807	871	+ 64	747
	売上高	640	767	+ 127	760
	営業利益	63	58	△ 5	70
	営業利益率	9.8%	7.4%		9.2%

- 水処理薬品事業、水処理装置事業ともに受注高・売上高が増加。
- 両セグメントともに原価率が上昇し、販管費も増加。
- 水処理薬品事業においては、コストアップ要因を増収効果が上回り増益。
- 水処理装置事業においては、複数の国内装置案件における追加原価発生により増収効果を相殺し減益。

(単位：億円)	2017/9期	2018/9期	前年同期比	期初計画
<b>受注高</b>	<b>446</b>	<b>525</b>	<b>+ 79</b>	<b>518</b>
国内	230	235	+ 5	236
海外	215	290	+ 74	282
<b>売上高</b>	<b>441</b>	<b>519</b>	<b>+ 78</b>	<b>512</b>
国内	226	230	+ 4	230
海外	214	289	+ 74	282
<b>営業利益</b>	<b>39</b>	<b>45</b>	<b>+ 7</b>	<b>44</b>
<b>営業利益率</b>	<b>8.7%</b>	<b>8.6%</b>		<b>8.6%</b>

- 国内売上高は、前年同期の機器等のスポット案件計上の反動があり1.6%増にとどまる。
- 海外売上高は、アジアを中心とした伸長と韓水の連結子会社化により高い伸び。
- 原価率の上昇と販管費の増加を増収効果が上回り増益。

## ■ 海外地域別売上高

(単位：億円)	2017/9期	2018/9期	前年同期比	期初計画
アジア	78	140	+ 61	126
北米	19	24	+ 5	25
EMEA	102	112	+ 10	115
その他	14	13	△ 1	16
<b>合計</b>	<b>214</b>	<b>289</b>	<b>+ 74</b>	<b>282</b>

# 水処理装置事業（国内電子産業向け）



（単位：億円）	2017/9期	2018/9期	前年同期比	期初計画
<b>受注高</b>	<b>276</b>	<b>316</b>	<b>+ 40</b>	<b>281</b>
装置	47	63	+ 16	55
メンテナンス 他	71	88	+ 17	65
超純水供給事業	123	131	+ 8	128
精密洗浄	34	34	△ 0	34
<b>売上高</b>	<b>250</b>	<b>284</b>	<b>+ 33</b>	<b>273</b>
装置	28	41	+ 13	38
メンテナンス 他	65	77	+ 12	74
超純水供給事業	123	131	+ 8	128
精密洗浄	34	34	+ 0	34

- 装置の受注高が、半導体、電子部品、ウエハで大型案件を受注し増加。
- 顧客工場の高稼働率を背景にメンテナンス受注が増加。
- 売上高は、装置の工事進捗やメンテナンス需要の拡大により増加。
- 追加原価の発生により装置の原価率が悪化。
- 超純水供給事業の売上高が、増設案件の収益計上により増加。

# 水処理装置事業（国内一般産業向け）



（単位：億円）	2017/9期	2018/9期	前年同期比	期初計画
<b>受注高</b>	<b>354</b>	<b>373</b>	<b>+ 19</b>	<b>331</b>
エネルギー・インフラ	275	275	+ 0	264
土壌浄化	64	83	+ 19	55
その他	16	15	△ 1	12
<b>売上高</b>	<b>264</b>	<b>278</b>	<b>+ 14</b>	<b>287</b>
エネルギー・インフラ	223	209	△ 14	228
土壌浄化	29	55	+ 26	47
その他	12	14	+ 2	12

- 電力向け装置の受注高は増加、一般産業向け装置の受注高は減少。
- 土壌浄化の受注高は、大型案件の受注により増加。
- 一般産業向け装置の売上高は受注の絞り込みにより減少。
- 電力向けや土壌浄化の売上高は受注残の工事進捗により増加。
- 追加原価の発生により収益性が大幅に悪化。

※「エネルギー・インフラ」には、電力向け・一般産業向けの装置・メンテナンス、官公需メンテナンス、化学洗浄が含まれています。



# 水処理装置事業（海外）

（単位：億円）	2017/9期	2018/9期	前年同期比	期初計画
<b>受注高</b>	<b>177</b>	<b>182</b>	<b>+ 5</b>	<b>135</b>
装置	127	121	△ 6	68
メンテナンス 他	39	45	+ 7	52
超純水供給事業	12	16	+ 4	15
<b>売上高</b>	<b>126</b>	<b>206</b>	<b>+ 80</b>	<b>200</b>
装置	87	161	+ 73	147
メンテナンス 他	27	29	+ 2	38
超純水供給事業	12	16	+ 4	15

- 受注高は、中国、韓国、台湾で増加。
- 中国・韓国向け装置の売上高は、大型案件の工事進捗により増加。
- メンテナンスと超純水供給の受注高・売上高が増加。
- 生産効率の改善により装置の収益性が改善。

## 地域別売上高

（単位：億円）	2017/9期	2018/9期	前年同期比	期初計画
アジア	122	201	+ 80	192
北米他	4	4	+ 0	8
<b>合計</b>	<b>126</b>	<b>206</b>	<b>+ 80</b>	<b>200</b>

# サービス事業売上高内訳

(単位：億円)	2017/9期	2018/9期	前年同期比	期初計画
水処理薬品事業	441	519	+ 78	512
水処理装置事業	462	521	+ 58	521
超純水供給事業	135	147	+ 12	142
精密洗浄	34	34	+ 0	34
土壌浄化	29	55	+ 26	47
国内メンテナンス	237	244	+ 7	248
海外メンテナンス	27	29	+ 2	38
その他	—	11	+ 11	12
<b>合計</b>	<b>903</b>	<b>1,040</b>	<b>+ 136</b>	<b>1,033</b>

- 超純水供給事業が計画を上回る増加。
- 国内メンテナンスのうち電子産業向けが増加。
- 土壌浄化が受注残の工事進捗により大幅な増加。

# 設備投資・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)	2017/9期	2018/9期	前年同期比
<b>設備投資額（有形）</b>	<b>88</b>	<b>129</b>	<b>+ 41</b>
超純水供給事業	72	90	+ 18
上記以外	16	39	+ 23
<b>減価償却費（有形）</b>	<b>66</b>	<b>75</b>	<b>+ 9</b>
水処理薬品事業	8	10	+ 2
水処理装置事業	57	65	+ 8
<b>研究開発費</b>	<b>26</b>	<b>27</b>	<b>+ 1</b>
水処理薬品事業	10	9	△ 1
水処理装置事業	15	18	+ 2

- 超純水供給事業、精密洗浄事業向けを中心に設備投資が増加。

# 財政状態

(単位：億円)	2018年3月末	2018年9月末	増減
現金・預金・有価証券	611	710	+ 99
その他流動資産	993	1,022	+ 28
有形固定資産	860	920	+ 60
無形固定資産	310	313	+ 3
投資その他の資産	456	465	+ 9
<b>資産合計</b>	<b>3,230</b>	<b>3,430</b>	<b>+ 199</b>
流動負債	561	574	+ 12
固定負債	260	430	+ 169
<b>負債合計</b>	<b>822</b>	<b>1,003</b>	<b>+ 181</b>
株主資本	2,226	2,259	+ 33
その他の包括利益	162	148	△ 13
非支配株主持分	20	19	△ 2
<b>純資産合計</b>	<b>2,409</b>	<b>2,426</b>	<b>+ 18</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>3,230</b>	<b>3,430</b>	<b>+ 199</b>

- 現金および預金、売掛金が増加。
- 超純水供給事業への設備投資により、有形固定資産が増加。

## 2 | 2019年3月期通期見通し

---

## 水処理薬品事業

- 国内製造業の生産活動は概ね堅調な推移を見込む。
- 欧州・米国・アジア経済は全体では緩やかな成長を見込むも、米中貿易摩擦の影響懸念あり。

## 水処理装置事業

- 国内電子産業ではスマホの生産が減少するも、半導体や電子部品への設備投資継続を見込む。
- 中国のFPD関連投資は一服、中国・韓国の半導体関連投資でも一部に計画延期あり。

# 業績見通しの概要

(単位：億円)		2018/3期 実績	2019/3期 見通し	前期比	期初計画
受注高		2,514	2,560	+ 1.8%	2,470
売上高		2,368	2,600	+ 9.8%	2,550
営業利益		225	240	+ 6.8%	240
経常利益		221	242	+ 9.5%	242
特別損益		34	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益		179	170	△ 5.0%	170
1株当たり当期純利益（円）		159.37	151.41	△ 5.0%	151.41
為替レート	USD（円）	112.2	110.0		110.0
	EUR（円）	126.7	130.0		130.0
	CNY（円）	16.6	16.8		16.6

- 電子産業向けを中心に水処理装置事業の受注高と売上高見通しを上方修正。
- 水処理薬品事業、水処理装置事業ともに下期の営業利益見通しを上方修正。

# セグメント別の見通し

(単位：億円)		2018/3期 実績	2019/3期 見通し	前期比	期初計画
全社	受注高	2,514	2,560	+ 46	2,470
	売上高	2,368	2,600	+ 232	2,550
	営業利益	225	240	+ 15	240
	営業利益率	9.5%	9.2%		9.4%
水処理薬品 事業	受注高	904	1,020	+ 116	1,022
	売上高	904	1,019	+ 115	1,022
	営業利益	72	84	+ 12	82
	営業利益率	7.9%	8.2%		8.0%
水処理装置 事業	受注高	1,611	1,540	△ 71	1,448
	売上高	1,465	1,581	+ 116	1,528
	営業利益	153	156	+ 3	158
	営業利益率	10.4%	9.9%		10.3%

- 受注高は、水処理装置事業において期初計画を上方修正。
- 売上高も水処理装置事業において期初計画を上方修正。
- 営業利益は、水処理薬品事業で上方修正、水処理装置事業でも下期見通しを上方修正。
- 水処理装置事業においては、上期にあった一時的な追加原価の縮小と原価率の改善を下期に見込む。



(単位：億円)	2018/3期 実績	2019/3期 見通し	前期比	期初計画
<b>受注高</b>	<b>904</b>	<b>1,020</b>	<b>+ 116</b>	<b>1,022</b>
国内	445	454	+8	453
海外	458	566	+ 108	569
<b>売上高</b>	<b>904</b>	<b>1,019</b>	<b>+ 115</b>	<b>1,022</b>
国内	444	452	+ 8	452
海外	459	567	+ 107	570
<b>営業利益</b>	<b>72</b>	<b>84</b>	<b>+ 12</b>	<b>82</b>
<b>営業利益率</b>	<b>7.9%</b>	<b>8.2%</b>		<b>8.0%</b>

- 国内売上高は、通期で1.8%増の見通し。
- 下期の海外売上高は、韓水の連結影響を除くとアルミナ化合物事業がなくなる影響で減少の見通し。
- 原価率の上昇と販管費の増加を増収効果が上回り増益の見通し。

## 海外地域別売上高

(単位：億円)	2018/3期 実績	2019/3期 見通し	前期比	期初計画
アジア	174	276	+ 102	258
北米	41	46	+ 5	46
EMEA	213	217	+ 3	233
その他	31	28	△ 3	33
<b>合計</b>	<b>459</b>	<b>567</b>	<b>+ 107</b>	<b>570</b>

# 水処理装置事業（国内電子産業向け）

（単位：億円）	2018/3期 実績	2019/3期 見通し	前期比	期初計画
<b>受注高</b>	<b>553</b>	<b>593</b>	<b>+ 40</b>	<b>533</b>
装置	92	100	+ 8	65
メンテナンス 他	146	168	+ 21	145
超純水供給事業	246	256	+ 10	253
精密洗浄	69	69	+ 0	69
<b>売上高</b>	<b>544</b>	<b>596</b>	<b>+ 52</b>	<b>560</b>
装置	79	103	+ 23	87
メンテナンス 他	150	168	+ 18	150
超純水供給事業	246	256	+ 10	253
精密洗浄	69	69	+ 0	69

- 装置の受注高は、半導体や電子部品分野における旺盛な設備投資需要により見通しを上方修正。
- 顧客の設備増強需要が期初想定を上回りメンテナンス受注見通しを上方修正。
- 受注高の上方修正により、装置とメンテナンスの売上高見通しを上方修正。
- 超純水供給事業は期初計画を若干上回る見通し。

# 水処理装置事業（国内一般産業向け）

（単位：億円）	2018/3期 実績	2019/3期 見通し	前期比	期初計画
<b>受注高</b>	<b>565</b>	<b>652</b>	<b>+ 87</b>	<b>630</b>
エネルギー・インフラ	443	527	+ 84	519
土壌浄化	91	101	+ 10	87
その他	32	24	△ 8	24
<b>売上高</b>	<b>594</b>	<b>617</b>	<b>+ 23</b>	<b>625</b>
エネルギー・インフラ	484	476	△ 8	502
土壌浄化	78	108	+ 30	99
その他	31	33	+ 2	24

- 電力向け装置と土壌浄化の受注見通しと売上高見通しを上方修正。
- 一般産業向けメンテナンスは、受注高を上方修正、売上高を下方修正。
- 一般産業向け装置は受注の絞り込みにより、売上高見通しを下方修正。
- 官公需メンテナンスの見通しは、受注高、売上高ともに下方修正。

※「エネルギー・インフラ」には、電力向け・一般産業向けの装置・メンテナンス、官公需メンテナンス、化学洗浄が含まれています。

# 水処理装置事業（海外）

（単位：億円）	2018/3期 実績	2019/3期 見通し	前期比	期初計画
<b>受注高</b>	<b>493</b>	<b>296</b>	<b>△ 198</b>	<b>285</b>
装置	391	182	△ 209	168
メンテナンス 他	75	83	+ 9	89
超純水供給事業	28	30	+ 3	29
<b>売上高</b>	<b>326</b>	<b>368</b>	<b>+ 42</b>	<b>343</b>
装置	225	256	+ 30	228
メンテナンス 他	74	82	+ 8	86
超純水供給事業	28	30	+ 3	29

- 中国、韓国向け装置の受注高は下期見通しを慎重に見るも、通期では上方修正。
- 中国・韓国向け装置の売上高見通しは、受注が想定を上回るため、下期、通期ともに上方修正。
- メンテナンスと超純水供給の受注高・売上高は増加の見通し。

## 地域別売上高

（単位：億円）	2018/3期 実績	2019/3期 見通し	前期比	期初計画
アジア	315	356	+ 41	326
北米他	11	12	+ 1	17
<b>合計</b>	<b>326</b>	<b>368</b>	<b>+ 42</b>	<b>343</b>

# サービス事業売上高内訳

(単位：億円)	2018/3期 実績	2019/3期 見通し	前期比	期初計画
水処理薬品事業	904	1,019	+ 115	1,022
水処理装置事業	1,005	1,103	+ 98	1,088
超純水供給事業	273	286	+ 13	282
精密洗浄	69	69	+ 0	69
土壌浄化	78	108	+ 30	99
国内メンテナンス	511	533	+ 23	528
海外メンテナンス	74	82	+ 8	86
その他	—	24	+ 24	24
合計	1,908	2,122	+ 213	2,110

- 超純水供給事業、土壌浄化、国内メンテナンスで期初計画を上回る見通し。

# 設備投資・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)	2018/3期 実績	2019/3期 見通し	前期比	前回計画
<b>設備投資額（有形）</b>	<b>221</b>	<b>360</b>	<b>+ 139</b>	<b>360</b>
超純水供給事業	162	260	+ 98	260
上記以外	58	100	+ 42	100
<b>減価償却費（有形）</b>	<b>135</b>	<b>135</b>	<b>+0</b>	<b>135</b>
水処理薬品事業	18	20	+ 2	20
水処理装置事業	117	115	△2	115
<b>研究開発費</b>	<b>53</b>	<b>55</b>	<b>+ 2</b>	<b>55</b>
水処理薬品事業	21	17	△ 3	17
水処理装置事業	32	37	+ 5	38

- 超純水供給事業への設備投資が大幅に増加の見通し。
- 上記以外では、精密洗浄事業、海外水処理薬品事業の製造拠点向けで増加の見通し。

### 3 | 中期経営計画MVP-22の重点施策 ( Maximize Value Proposition 2022 )

---

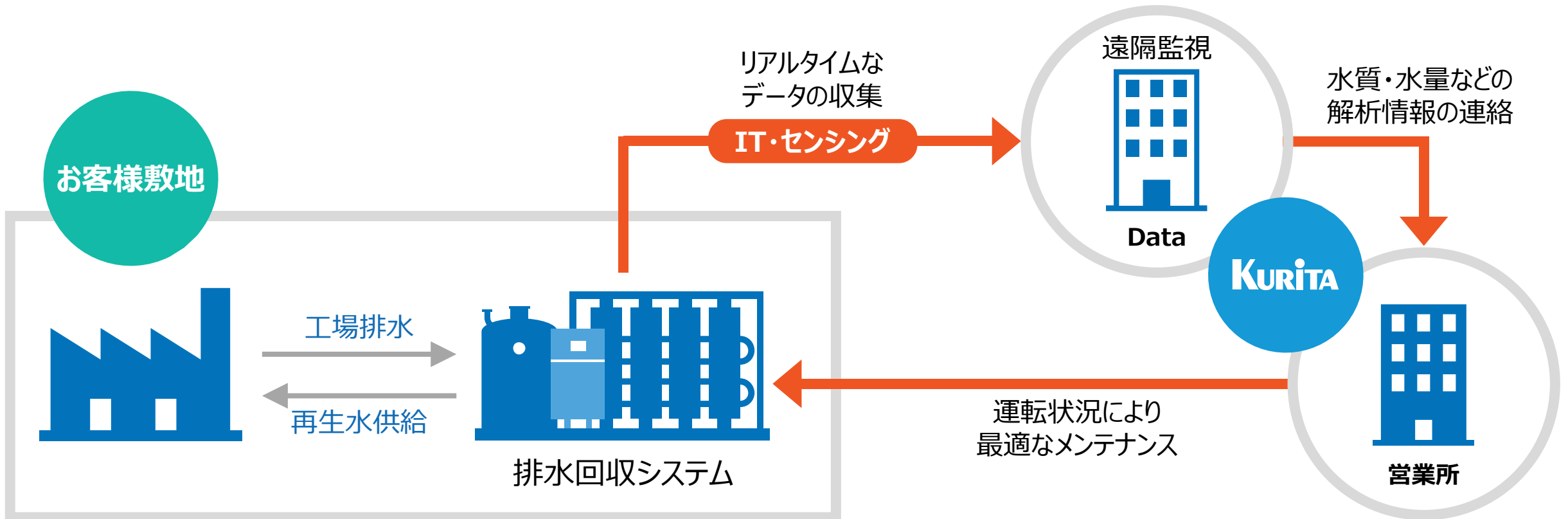
**1** 創出価値を共有するサービス契約型ビジネスの拡大

**2** 大型EPCを起点としたメンテナンス・運転管理の包括契約化

**3** 低採算の事業や資産の整理・縮小



## 再生水供給サービスの提供開始

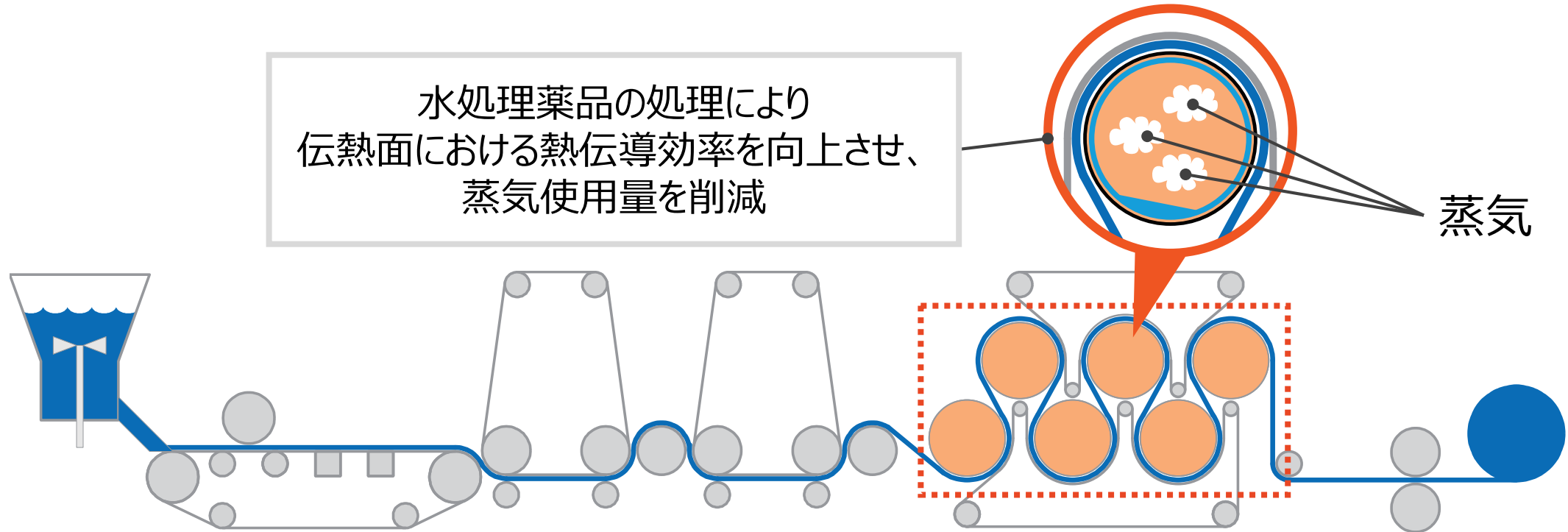


水の回収・再利用の価値を提供し、水資源問題の解決に貢献

## 製紙工場における蒸気使用量削減の契約化の事例

水処理薬品の処理により  
伝熱面における熱伝導効率を向上させ、  
蒸気使用量を削減

蒸気



ワイヤー工程

プレス工程

ドライヤー工程

リール工程

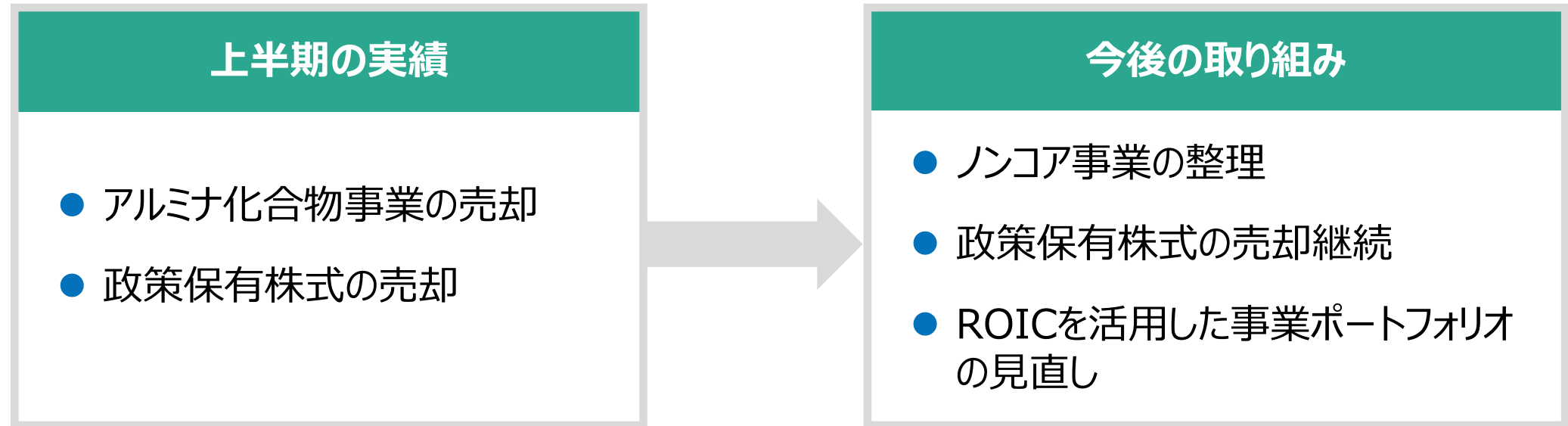
サービス契約化による収益性の向上

## あらゆる工程で多岐にわたるソリューションを提供

価値	工程	原水処理	純水製造	排水処理	ユーティリティ
▶ 省エネ	省電力型設備導入				
					ボイラ・冷却塔の効率化
▶ 節水	上水の削減	運転最適化			
			排水回収		
▶ 省力化				アウトソーシング	
	遠隔監視				

運転管理契約ではすべてのソリューションをカバー

## 資本効率を基準に整理・縮小を判断

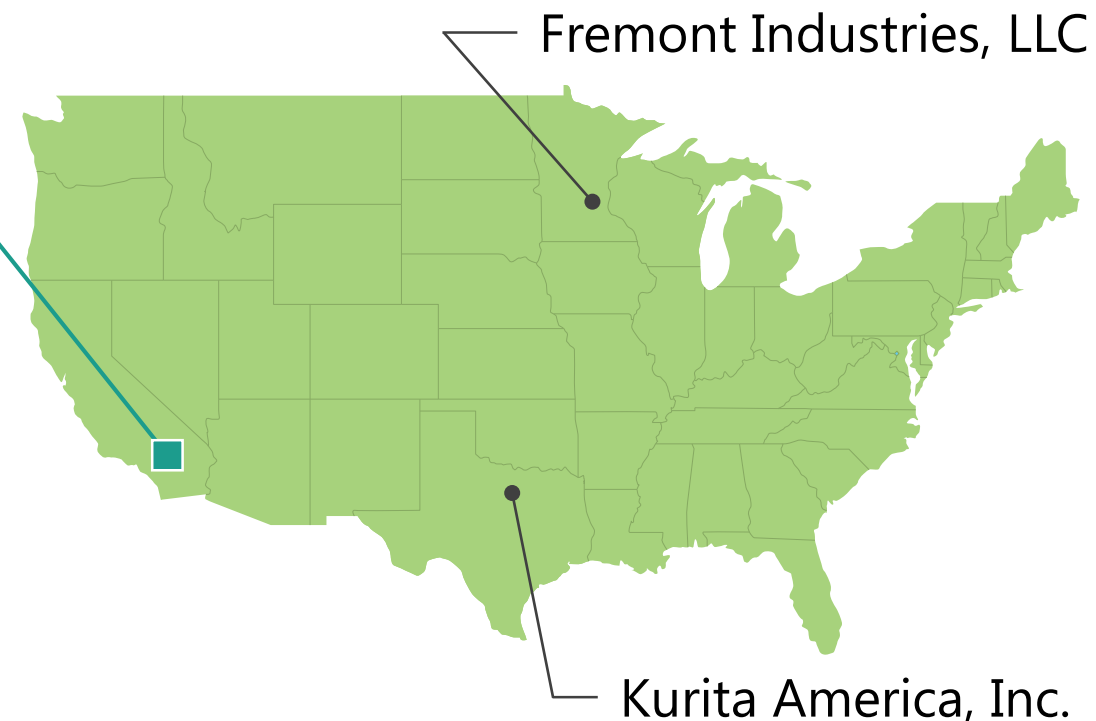


総合ソリューションへの貢献度合いで事業選別

## 米国精密洗浄事業のPentagon社の株式25%を取得

### 会社概要

社名	Pentagon Technologies Group, Inc.
設立	1998年
事業内容	精密洗浄事業、半導体表面微粒子の測定機の開発、クリーンルーム関連サービス
従業員数	約700名
拠点	本 社：カリフォルニア州 事業所：テキサス州、オレゴン州
顧客	大手半導体メーカー、半導体製造装置メーカー



クリテックサービス（国内）の技術、サービスとの融合により  
グローバルに付加価値の高いソリューション提供を目指す

## 従来の顧客環境改善商品をCSVビジネスに再定義



**CSVビジネスは提供する社会的価値が高く競争優位性が高い**



将来見通しに関する注記事項

本資料に掲載されている計画数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。